会議要旨

名称	阿佐ケ谷駅北東地区まちづくりを振り返る会		
日時	令和5年10月19日（木） 18時00分～21時10分	場所	杉並区役所 第3・4委員会室
区出席者	杉並区長、政策経営部区政経営改革担当部長（事業調整担当部長）、都市整備部長、都市整備部まちづくり担当部長、政策経営部施設マネジメント担当課長、危機管理室防災課長、都市整備部市街地整備課長 司会、都市整備部拠点整備担当課長（事業調整担当課長）、都市整備部都市企画担当課長（事業調整担当課長）、教育委員会事務局学校整備担当部長、教育委員会事務局学校整備課長		

（1）次第

1　開会のあいさつ
2　出席者紹介
3　区からの説明
4　質疑応答
5　閉会のあいさつ

（2）会議記録（要旨）

※振り返る会の名称や進行方法について発言があった。

＜区長 開会あいさつ＞

本日はお集まりいただき本当にありがとうございます。

8月31日の振り返る会に続いて本日と22日継続的な会を開催します。31日にお越しになってない方もいるかと思うので、繰り返しになってしまうかもしれないが、少しだけ触れさせていただきたい。

阿佐ヶ谷駅北東地区の一連の事業は、先の区長選挙の争点の一つになった。昨年の区長選挙を通じて、この事業について教えてくれなかった、話を聞いてもらえなかった、決まったことの説明ばかりされてきた、といった声や、情報の公開や合意形成のプロセスなど、様々な疑問、問題点があると指摘する区民の声をたくさん聞いた。

本事業について、区民の皆様から分かりにくかったり、見えにくかったりした事業の経緯、趣旨や、現時点でどのような状況になっているのか、いろいろな課題や今後の阿佐ヶ谷のまちづくりの進め方についても、皆さんと一緒に考えていきたいと思い振り返る会を開催した。

また、31日に参加した方も多いと思うが、その時には、ご意見や質問がたくさん出た。その時間内でこちらからお答えすることができなかった、みなさんの意見をすべて聞くことができなかったので、その継続をやりたいと考えている。

今回の継続会についてなるべく早く開催したいと職員含め努力してきた。その間に議会もあった。

まずは、31日に参加してくださった方にご連絡をして、その後ホームページでお知らせを公開した。すべての人が満足いく状況ではないかもしれないが、わたしたち職員ができる最大の努力と思っていただければ、幸いである。

今回も自分の考えを伝えたいという方がたくさん集まっていただいている。区の説明をしっかりと聞きたいと思っている方もいると思う。
まずは、前回の質問に対する回答を区から手短にお話ししたい。
質問と回答の量が多くなったが、ホームページに掲載をしていた資料を読めた方はどれくらいいるか？読めてない方も心配しないでください。今日できるかぎり説明していくが、ここにかなり詳しく書かれている部分もあるので、帰ってからでも確認をしていただければと思う。時間に限りはあるが、できるだけ皆さんの声を聞き答えていく時間にしたいと思う。どうぞよろしくお願いします。

＜区からの説明＞
配布資料の阿佐ヶ谷駅北東まちづくりに関する主な質問と回答に基づき、区から説明。

＜質疑応答＞
参加者：2 つの点から移転に疑問を持っている。学校教育が成り立たなくなってしまう。長い教員経験の中で学校移転を経験したことがない。このような学校移転を行おうとしている杉並区は認識が甘い。
改築で校舎とプールの場所が変わったことがあるが、それだけでも大変だった。
騒音等の苦情があった。プール指導では、マイクを使用するため、早朝に近隣に挨拶をする必要がある。移転は、近隣との関係を築いてきたものが無駄になる。
また、子どもの健康問題である。光化学スモックの被害で、授業で児童が倒れることがあった。杉二小は高台だったから大丈夫だった。杉一小も高台にするべき。
いろいろな経緯があっていろいろと考えなくてはいけないこともあると思うが、子ども第一で検討が必要。
学校整備課長：移転をしても学校教育への心配はいらないと考えている。昭和６０年に杉並第十小学校が蚕糸の森公園へ移転をしている。幹線道路付近から静かな環境に移転した例になる。大宮前体育館の所にあった荻窪小学校も近隣に移転をしている。富士見ヶ丘小学校が高井戸公園の隣に移転しているが、何事も問題なく運営している。このように実績もあるので、問題ないと考えている。
プール指導での騒音についても騒音防止の壁をたてるなど対策をしていく。
音楽室の騒音についても防音室の設置等対策をしていく。
教育環境に不安を持っているということに関しては、区としてもごもっともだと思っている。そうした中で、できる対策やできる対応を探っていきたい。皆さんにご意見を伺いながら対策をとっていきたいと考えている。
参加者：8 月 31 日振り返る会のあとに要望書を提出している。資料を来ているみなさんに配布している。区が配布した資料の A 案 B 案の比較表と 2019 年に区が委託して作成した検討比較表を比べると抜け落ちている点がある。病院の土壌汚染については、学校の開校がさらに遅れる可能性がある。そのことについて、8 月 31 日は問題にされていない。河北病院跡地は不整形で、実際は使える面積が広くないだろうと記載があるが、振り返る会の資料にはない。水害の問題に対しても振り返る会の資料ではあまり重大に考えているようには思えない。移転先の住宅地の中で、地域住民とうまくやっていけるのか。

なぜ抜け落ちていたのか聞かせて欲しい。
拠点整備担当課長：8 月 31 日での資料については、概略についてお話をするために 2019 年の委託の資料をそのまま転記するのではなく、わかりやすい資料作成をしたものになる。
敷地の不整形についても外に体育倉庫や駐輪場等を設置する必要があるので、そのようなものを設置するように検討をしていきたいと考えている。
また、浸水については、雨水貯留槽の設置や雨水トレンチの設置をすると記載をしたうえで、より詳しく説明を実施しているので、浸水について軽視しているようなことはない。
事業調整担当課長：ハザードマップは、時間 153ｍｍ総雨量 690ｍｍの雨が降った時のものになる。河北病院跡地については、0.1ｍ～2.0ｍの浸水予想になっている。下水道局の第二桃園川幹線ができたときのシミュレーションを 2021 年に実施していて、時間 75ｍｍのシミュレーションにはなるが、0.2ｍ～0.5ｍの浸水がなくなることになっている。直径 2.6ｍの本管については、今年度施工が終わる予定。これで豪雨対策が完了するわけではないが、各家庭でも雨水流出抑制対策等も実施している。
施設マネジメント担当課長：進め方のプロセスについて、A 案から B 案に変更するときに説明がなかったという趣旨だと思う。
質問と回答の Q2 で回答しているが、学校関係者への説明に関しては、平成 28 年の 10 月に移転改築の可能性が出てきた段階で、このような可能性が出てきたことと実現の可能性を探っていきたいと話をしている。また、地域の皆様にもお話をさせていただいた。その中で、現地建替のままでといった話もいただいたが、実現の可能性があるのであれば探ってみてもいいのではないかという意見も多くいただいた。可能性を検討する中で、改築検討懇談会が実施されなかったというのも事実である。改築検討懇談会を無視したわけではなく、比較検討の B 案の中間まとめをお示したうえで、平成 29 年の 2 月に改築検討懇談会の方々に意見を求めている。その後 3 月には、保護者や周辺住民の方に説明しているので、改築検討懇談会という形ではないが、改築検討懇談会の方々に話をしたうえで進めている。区としては、丁寧に説明をしてきたつもりだが、説明が十分ではなかったとご意見をいただいているので、真摯に受け止めなければいけないと考えている。
参加者：杉一小おやじの会では、夏に校庭でキャンプやその中で避難訓練等も実施している。12 月には、餅つき大会等も実施している。そういったことを長年やっている。移転先でもこういったことができるか心配。子どもたちは花火やテントでの寝泊まりを楽しかったと話している。騒音防止に防音の壁を設置する等言っているが、子どもはまわりの景色も見たい。そういったところも考えて良い方向にまとめて欲しい。
学校整備課長：校庭の遊びについては、移転先でも同じようにできるように調整したいと考えている。
参加者：けやき屋敷を撤去して、病院と共同住宅をタワーで建設する。病院跡地に杉一小を移転する。杉一小跡地にアリーナを作る。産業商工会館や地域区民センターはけやき公園に移動する。錦糸町前の錦糸公園のような緑がある施設を建設して欲しい。
参加者：等価交換の坪単価いくらかを情報公開することが必要。裁判でも敗訴になっている。岸本区長になってから大事な数字が公開されていない。情報開示をしていく公約

と違うのではないか。鑑定士は発注者の意見を忖度する。浸水地域の評価については、鑑定士によってかなり変わる。これらのことから坪単価を開示しないと意味がない。
行政訴訟の場合、前区長の時に決まっていたといっても現区長の責任になる。
事業調整担当課長：土地の評価の金額については、区の財産だけではなく、河北病院や地権者の方もいる。河北病院や地権者の財産の情報にもなってきてしまうので、区の一存では、開示は難しい。評価の係数を使って計算している。公開できるものについては、公開していきたいと考えている。
区長：ご指摘ありがとうございます。今の情報では、公平に交換が行われているのか判断できないというご指摘だと思う。区の情報を公開できたとしても地権者の了解をとらなければできないので、地権者に話をしている。
参加者：説明会の意味がわからない。この案を既定路線で進めている、説明したという既成事実のためであれば無意味だと思う。変わらないなら意味がない。
河北病院の移転と学校の改築は関係ない。移転する理由について、いろいろと話をしていたが、移転する理由になっていない。少子化の時代なので、校庭を広くするのは理屈にならない。複合施設を作ることでにぎわいになるとは思えない。商店街にも話を聞くべきだ。
参加者：中杉通り景観まちづくりを 2 年間かけて検討していた。その後 2 年 8 カ月延長して、構想を作った。みどりを大切に暮らせるまちとしていますが、緑を伐採してしまった。阿佐谷にある緑はすごいと言われていた。中杉通りとけやき屋敷。河北病院に森を復活して欲しい。
参加者：公共益を上昇するための防災拠点ゾーンを作ることは大事なこと。区民に分断を持ち込んでしまった。河北総合病院は元々迷路のような病院だった。杉並区で緊急病院として役にたっている。コロナの時も拠点病院になっていた。1 棟になることはいいことだと考える。100 年に 1 度の大震災が起こっている。今の杉一校舎が老朽化しているのであれば地震の被害を小さくすることが大切。水害よりも地震対策をするべき。子どもは地域の宝、国の宝。子どもの声への地域の苦情の話もしているが、子どもは、うるさくて当たり前。敷地がもっと低い学校は他にもある。３m低いぐらいで空気が淀むのか。
最後に言いたいのは、A 街区に 3 割の権利がある根拠を数字で示すべき。事業の予算概案を作成することが必要。
区長：計画に疑問のある声などあったが、いろいろな意見をいただきたい。
子どもたちにとっていい計画なのかどうか等も考えていきたい。
防災拠点にしていくことも考えていきたい。
参加者：けやき屋敷を残していたことがすばらしい。拠点病院も大事だと聞いているが何かできなかったのかと思う。前の区長であれば、こうなったからで終わっていたけど、こういう会を開いていただきありがとうございました。職員の方もありがとうございました。
元々現地建替だったが、B 案になった。改築懇談会 7 回実施して、計画は進んでいた。河北病院の移転により変わってしまった。P4 を確認すると検討部会としてずっと話をしていた。
最初に懇談会に説明がなく、その後翌年に懇談会で移転案の説明が出た。懇談会と別の

会で話合いをするのはありえない。案が出た段階で、保護者に話をするべきでした。保護者にはいろいろな専門家がいる。内部だけで決めていたのはおかしいと思う。内部だけでの検討について、どのように考えているか教えて欲しい。
施設マネジメント担当課長：平成 28 年 8 月に地権者や河北病院から移転の可能性があると話があったあとに区で可能性について検討することとなり、10 月に改築検討懇談会のメンバー等に話をしている。
A 案に係わっていただいた方に真っ先に話をしている。そこでいろいろな意見を聞いた中で他の方にも意見をいただいて、杉一小の移転について検討をしてもいいのではないかとの意見をいただいたので、検討を進めた。内部の検討部会で先に話をしているのがおかしいのではないかとの話だが、ご指摘の平成 28 年の 9 月 27 日の杉並第一小学校改業・複合化検討部会（第 13 回）では、杉一小の移転についての話はしていない。
拠点整備担当課長：杉並第一小学校は日影規制がなかったときの校舎になり、日影規制を考えると、北側からセットバックして建設することになる。南に校舎を配置した場合 6，7 階建てになる。校舎自体が日影を作ることになってしまう。また、校庭も 2000 ㎡弱となり、同じような校舎配置の高円寺学園と比べると、グラウンド面積が半分以下になると想定される。
また、現地建替での仮設校舎を建てる場所が見つからない。仮設校舎は、本校舎と比べて不便なことも多く子どもにとって環境があまりよくない。現地建替の場合は、これから 2 億円の借地料を毎年支払わなければならない。
参加者：今回の資料を見て、小学校は今のままがいいと感じました。
校庭の狭さや土壌汚染や浸水や杭打ちの長さについて話しているが、今のままでいい。3 人の子供が 12 年通っていたが、運動会等もできていた。一等地の学校がもったいないと思っているのではないか。3．11 震災の時に泊まることができた。屋上にプールを作るなどして校庭を広くできるのではないか。
仮設校舎などにお金がかかると言っているが、長い目でみてお金をかけていいのではないかと考える。もう一度見直してほしい。
参加者：杉一小の特徴として、地域とのつながりが強い。地域に支えられて地域とともに学ぶ学校だと考えている。改築懇談会のメンバーは学校の関係者であったため、コンセプトもこどもを大切にしているものになっている。複合化検討委員会等には学校関係メンバーが入っていない。メンバーを公開するべき。議事録を公開するべき。区民と行政の分断や区民同士の分断をとめることができるか。対話の区政、情報公開をして欲しい。
前回よりも丁寧な説明ではあるが、前回と言っていることは変わらない。このままの状況では、どういうスタンスで改築懇談会をすればいいのか困ると思う。
区長：施行者会に参加して、地権者の方とも数時間話をすることができた。A 街区についていろいろな噂はあるが、地権者の方は、阿佐ヶ谷北東を地域のために防災のために商店街のために 100 年先の阿佐ヶ谷北東をみなさんと作りたいというお気持ちをお聞きした。真摯なディスカッションができた。区民の分断、行政の分断を解決していくためには、情報開示が大事。信頼を取り戻していくことを進めながらこのプロジェクトを進めていく土壌を作りたい。

参加者：一緒にまちを作っていきたい。今回は、対話になっていない。A 街区に現地建替する場合に３者間での合意が必要ということに変わっている。8 月 31 日の資料では、2 者間になっていたが、なぜ変わっているのか。河北病院からの合意は必要なのか。地権者の方が杉一小のために合意をしているのであれば、現地建替にしても合意してもらえるのではないかと思う。換地をし直すことができれば、2 億円の支払いはいらなくなる。困難なことでも解決に向けて対話をしていこうということが今回の趣旨であって、今回の会は、そのようになっていない。
事業調整担当課長：3 者で協定を実施しているので、3 者での合意が必要になる。
参加者：基本計画策定のプロセスに欠けているものがある。費用対効果の比較表を出してもらえるか。A 案と B 案の学校の開校時期を教えて欲しい。玉突きにしたことで、遅れている。河北病院が遅れたことでもっと遅くなっている。目的は、老朽化校舎を改築するためか。
施設マネジメント担当課長：A 案と B 案の予算の比較表を記載している。
学校整備課長：A 案の杉一小の完成時期は令和 3 年度。B 案の完成時期は、令和 10 年度、現在の予定は、令和 11 年度に変更。老朽化した校舎を改築することが目的である。
参加者：前区長の本を読んだ。杉一小の移転建替えに賛成する人が 3 人ほどしかいなかったと記載してあった。杉一小学校を今のまま残すべき。高層のビルによる賑わいと言っているが杉並区が考える賑わいとは何か。高層ビルに大手の会社やチェーン店がどんどん入ってくることが予想される。商店街に足を運ばなくなり、商店がなくなっていってしまう。パールセンターの七夕祭りもチェーン店が多くなり、淋しくなってしまっている。賑わいをどのようにつくるか一緒に進めていきたい。
参加者：区長は住民との対話、理解が大事と言ってきたが、住民が理解できていない。P21 だけでは、理解できない。計画を進めるためにはたくさんの資料を作っているが、見直しについては、6 行だけ。見直しを真剣に考えているようには思えない。区民の期待は計画を止めたいということ。住民の希望をとるのか。理解のない事業を進めたいのか。区長への期待と違うものになってしまう。
参加者：改築検討懇談会では、まだ皆様に話す状態ではないと言いながら三者で合意していることは許せないと思う。平成 29 年 2 月 20 日には中間まとめを出している。中間まとめから変えていないことについてもおかしいと思う。元々は教育の話をメインでしていたが、移転の話が出たあとは、賑わいの話ばかりになってしまっている。
平成 29 年 2 月 28 日から 3 月 3 日の間で意見交換会があり、15 名、21 名、122 名の参加者の中で反対の方が多かったのではないかと思うが、賛成の方がいたのか？
8 月 31 日や今回の会で反対の方が多かったということを地権者に伝えてもらえるか？議事録も確認してもらいたい。井出教育長がコミュニティスクールを始めて、その代表校であって、地域の方が係わっている素晴らしい学校であるということは、お金ではない価値だと思う。学校への陳情で教育環境が大変な状況になっているので、今回の移転は、難しいと考えている。
施設マネジメント担当課長： 区のホームページに個別の議事録ではないが、意見交換会の意見や区の考え方をまとめて掲載している。その中では、多岐にわたる意見をもらっている。ホームページを確認してもらいたい。

区長：地権者に伝えて欲しいとの話については、地権者に伝えておく。みなさんの意見についても伝えていく。
参加者：この辺りは、防災公園がない。広域避難場所まで区内でも最遠の距離。災害危険度が４，５の地域を逃げなくてはならない。公園が欲しい。10 年前頃に区へ要望書も提出した。災害時に地域の人の命を守る公園を作って欲しい。河北病院跡地に公園を作って欲しい。木密地域で区は公園用地が欲しいと言っていて、公園用地になりそうな場所があれば、区に声をかけて欲しいと言われた。阿佐ヶ谷駅の南側の地域では、えんがわ公園を作ってもらえた。阿佐ヶ谷地区の緑被率を確認して欲しい。にぎわいと言っているが、需要がなかった地域もあるため、考えて進めて欲しい。
参加者：これからどのように変えていくのか。区民の声を吸い上げる会だと思っていましたが、先程岸本区長が、杉並区の考え方を納得してもらえるように努力したいと話した。
職員の方は、移転したほうが良いと考えている。区長はどのように考えているのか。
180 度変えることは難しいと言ったのか不可能と言ったのか。
区長：計画を 180 度変えることは難しいと言った。
参加者：河北病院が地権者の森に移転することは決まったのであれば、かなりの打撃ではあるが、それは仕方ないと思う。今まで守ってきたみどりがなくなるので。河北病院の跡地の土地をもらったのはよかったと思う。河北病院の跡地にも移転すれば良いと思う。３割の権利を持っているので、A 街区に建物ができたあとに戻ってくればよい。その間に地区計画を締結すればよい。そんなに難しいか？
拠点整備担当課長：地区計画だけでなく協定等いろいろなものがある。他の施行者の理解や同意が必要になる。また、東京都等の協議も必要になってくるので、難しいものと考えている。

＜区長 閉会あいさつ＞
対話ということで、8 月 31 日の会の質問等についての情報を共有した。これからもみなさんに情報の共有を実施していきたいと思う。
みなさんの意見は大切だと考えている。
A 街区について、にぎわいの創出について計画の中にあって、高層のビルが建ちチェーン店が入ることを誰が望んでいるのかという意見があったが、少なくとも区も地権者もそのようなことは、望んでいない。
A 街区を商店街や防災や子どもたちのことを考えていくことをみんなで考えていきたい。
Q7 の 1，2 について、計画が変更したときにどのようなことが起きるのか区がもっと情報提供できることがあると思うので、課題にさせていただきたい。
協定から 6 年たっている。6 年前ならできたこともあったかもしれない。6 年たっていることはみなさんにも理解して欲しい。
対話が大切と話をしているが、歴史も大切だと思っている。この事業について、いろいろな考え方があるっていうのはうそではない。多様な考えの人が阿佐谷のまちをつくってきた。ここにいらっしゃらない方の意見も聞いてきた。学校関係者の方々や商店街の方々にも意見を聞いていきたい。その先には、ここに来ている方にもいろいろな考え方

があると思う。来ていない方にもいろいろな意見があると思う。みんなで同じ土俵にたちたいと考えている。それが区長としての責任だと考えている。そのためにみなさんの納得のいく情報開示をしていきたいと思うので、よろしくお願いします。
配布資料
阿佐ヶ谷駅北東まちづくりに関する主な質問と回答

会議要旨

名称	阿佐ケ谷駅北東地区まちづくりを振り返る会		
日時	令和5年10月22日（日） 13時30分～18時05分	場所	杉並区役所中棟5階 第3・4委員会室
区出席者	杉並区長、政策経営部区政経営改革担当部長（事業調整担当部長）、都市整備部長、都市整備部まちづくり担当部長、政策経営部施設マネジメント担当課長、危機管理室防災課長、都市整備部市街地整備課長 司会、都市整備部拠点整備担当課長（事業調整担当課長）、都市整備部都市企画担当課長（事業調整担当課長）、教育委員会事務局学校整備担当部長、教育委員会事務局学校整備課長		

（1）次第

1　開会のあいさつ
2　出席者紹介
3　区からの説明
4　質疑応答
5　閉会のあいさつ

（2）会議記録（要旨）

＜区長 開会あいさつ＞

本日は、ご参加いただきありがとうございます。

本日初めての方もいらっしゃると思うので、少しだけ経緯について触れさせていただきたい。

阿佐ヶ谷駅北東地区の一連の事業は、先の区長選挙の争点でもあった。昨年の区長選挙を通じてこの事業について、情報の公開や合意形成のプロセスについてなど様々な疑問や問題点があると指摘する区民の皆さまの声を沢山お聞きした。

本事業について、事業の経緯、そして趣旨や現時点での状況、区の考えなどを正確に充分にお伝えし、色々な課題や今後の阿佐谷のまちづくりの進め方について一緒に考えていく機会とするために、振り返る会を開催した。それが8月31日であったが、皆さんの意見をお聞きする時間が足りなかったため、あらためて先週の木曜日と本日の2回を継続会として設定した。31日に来ていただいた方には郵送やメールでお知らせし、その後すぐに区のホームページやＳＮＳで周知するとともに、阿佐ヶ谷駅の区のお知らせ掲示板にもチラシを掲載した。区としては、できるだけ早くこの会を開催したいという気持ちで最大の努力をし、8月31日に出された様々な皆さまからの疑問、質問をなるべく整理し、わかりやすくお伝えするために資料を準備した。本日の会は、資料を見た方も見ていない方にも対応できるように準備しているので、心配なくご参加いただきたい。

前回の19日の会で既に決まっていることを説得するという会であったら、会に来る意味はないとか、対話になっていないとか、既成事実を作るための会とか、厳しいご意見もあった。そうではないということをあらためてお知らせしたいと思う。私も職員も、皆さまお一人お一人のご意見をしっかりと聞いている。そしてその意見を踏まえて前に進んでいきたいと思っている。そして大切なことは、色々な意見の方、色々な関わりの方がいらっしゃると思うが、皆さんが発言をしたり、疑問を言ったり、もっと知りたい

と思っている人がもっと知れる場をつくっていきたいと思っている。発言するのをためらわれる人もいると思うが、遠慮なく声を聞かせていただきたい。
　本日参加している全ての方を尊重し、全員がなるべく満足できる場となるように努力していくので、皆さまにもご協力をお願いしたい。時間が許す限り希望される方が全員発言できるように、またその発言を皆さんが聞ける場をつくっていくので、よろしくお願いいたしたい。

＜質疑応答＞
参加者：お互いが問題を出し合って、問題を整理して進めていきたい。「振り返る」の意味を調べたところ、これまでの一連の流れを総括すること、顧みることと書いてあった。配布された区からの 31 日の回答を読むと、31 日の内容と異なっているように思える。31 日の内容以外にも入っているのではないか。議事録がほしい。
拠点整備担当課長：8 月 31 日にいただいたご意見をまとめて作成している。8 月 31 日に区側から回答できなかったものも含めて、丁寧に書いたものである。8 月 31 日に区から回答したものに、更に内容を加えてわかりやくす説明している。議事録はホームページで公表している。そこから抜粋したものを今回配布した資料に記載している。
参加者：ホームページに掲載しているからそれを見ればいいという回答は、年配の方々に失礼である。パソコンを持っていない人もいるし、見方がわからない人もいる。
拠点整備担当課長：議事録についてはよろしければこれから印刷する。お渡しした資料の中身についてのご質問であれば本日この場でお受けする。
参加者：この場で資料を読み切れない。
区長：本日聞くことができなかった部分については、後に書面で聞いてもらってもよいし、区役所に直接聞きに来ていただいても構わない。このような集まりを設けられるかということが回答できないだけである。この先のことはまた提案させていただくが、質問等があれば個別でも対応したいと思っている。
参加者：このような場をもう一度設けてもらいたい。
都市整備部長：まさに今質問が始まったばかりである。それぞれがおっしゃりたいことをまずは聞かせてもらった上で今後どうしていくのがよいのか考えたい。これでいきなり終わるということは一切考えていない。
参加者：問答を繰り返す形の会にしてもらいたい。
都市整備部長：本日は一問一答の対話形式でお答えしていく。
参加者：配布された資料は、杉一小学校の移転は決まっているが、移転後の跡地の活用方法については知恵をお貸しくださいと記載されているように読み取れる。杉一小学校の移転が決まっているということがこの資料で共有されてしまっているのではないかと心配していたが、先程、小学校の移転ありきで進めてほしくないと区長に伝えたところ、そのつもりはないと答えてくれたので、皆さんも安心していいと思う。
参加者：席に私たちが考えてまとめた資料一式を配布した。8 月 31 日の資料の中にＡ案とＢ案を比較してそれぞれの長所短所をまとめた表があった。この表のそもそもの元となっている資料として、2019 年に出された佐藤総合計画作成検討比較表というものがある。

8 月 31 日の資料と 2019 年の資料の比較を行った結果、違いが多数あったのでそれを独自の資料にまとめた。黄色で色付けした箇所は 8 月 31 日の資料からは抜けてしまっている箇所を示している。緑色で色付けした箇所は、２つの資料で異なる箇所である。なぜ、違いがあるのか。事業スケジュールへの影響という部分で、病院後に土壌汚染があった場合、学校開設時期が更に遅れるリスクがあると記載されている。これは重要な問題であるが、今日の説明の中でもあまり重要視されていないように感じた。汚染の深さは掘ってみないとわからないのではないか。汚染の深さにより除去に掛かる時間も金額も異なってくるため学校開設時期にも影響が出る。このリスクについて区はどのような対策を考えているのか。
都市企画担当課長：土壌汚染は病院側が対策を行う。期間については、汚染が発覚した場合の対策期間も含めて協定に見込んでいる。
参加者：土壌汚染はあるのではないか。事前調査で履歴があり汚染のリスクがあることが資料にも記載されている。
都市企画担当課長：履歴というのは、汚染の履歴があるということではなく、病院運営の中で汚染の原因となり得る物質を取り扱っていた履歴があるということ。それが土壌まで染み渡っているのかはまだ確認できていない。病院の解体時に、ボーリング調査を含めて詳しい調査を行う。汚染の有無や深さも調査によりわかることなので、現状では汚染があるかどうかも、どの範囲まで掘削が必要になるのかもわからない。
参加者：私は 100%汚染があると思っている。親戚の病院が閉院した際も汚染が出て完全閉院するまで 3 年かかった。戦後から始めた病院でも汚染が出ているのに、戦前から開業している河北病院に汚染が出ないかもしれないというのは認識が甘いので改めるべき。
都市企画担当課長：汚染の有無はわからない状況であるが、汚染への意識についてのご意見は受け止めさせていただき、病院側にも共有していく。
参加者：古い病院なので恐らく汚染はある。汚染範囲も今後の調査でわかるということはわかった。こんなにもわからない状況で今後の予定が立てられていることが不思議である。汚染が出れば学校開設時期は遅れる。区の説明の中で、少しでも学校開設時期を早めるために個人共同施行の手法を取ったとされているが、短縮しようとしている割には、土壌汚染による遅れに対しては具体的に考えていない。
2 点目として、Ｂ案のデメリットとして 2019 年の佐藤総合計画作成検討比較表に、不正形な土地であるという記載が何度も出てきている。土地を有効的に使える形ではないのにも関わらず、Ｂ案のメリットとして 1,000 ㎡程度広くなると記載されているが、実際には校庭も校舎もそんなには大きくならないのではないか。数字を示して説明してもらいたい。
拠点整備担当課長：当時の移転改築案における校庭の広さは、2,400 ㎡の案と 2,700 ㎡の案がある。
参加者：Ａ案は屋上校庭であるが 2,560 ㎡となっている。広さは大して変わらないのではないか。
拠点整備担当課長：屋上校庭である場合広さとしてはそれ程変わらないが、現地建て替えで地上に校庭を設けた場合は小さくなる可能性がある。

参加者：屋上か地上かという問題であり校庭の広さは大して変わらないということか。
拠点整備担当課長：広さに関しては大して変わらないが、屋上に校庭が移った場合は、災害時の避難場所についての課題があると当時も意見をいただいていた。
学校整備課長：Ａ案とＢ案の違いは屋上か地上かという部分が大きい。子どもたちの教育環境としては自然体である地上校庭が望ましいと考えている。
参加者：地上がよいのは当たり前であるが、当時の学校改築検討懇談会で様々な検討をした結果、Ａ案で納得したはずである。そもそもそこで納得してＡ案決まっているのだから、地上校庭がよいからＢ案にするのは論理がおかしいのではないか。
施設マネジメント担当課長：改築懇談会では、議論を重ねて非常に大きな問題があると感じながらも、このエリアで阿佐谷地域区民センターや産業商工会館の老朽化の課題も解決していくためには、杉一小の用地で建て替えを行い複合化するしかないというところでご了解をいただいた。ただ、それでもなお、屋上校庭の課題については、改築懇談会以外のところからもご意見をいただいていた。そうした中で、病院の移転改築が浮上し地上の校庭ができる可能性が出てきたというところで、議論を重ねて可能性を探っていった。
参加者：高円寺学園もグランドが狭くて屋上の利用を検討していた。同様に、杉一小もグランドが全く使えないわけではないのではないか。
学校整備課長：高円寺学園は面積が広い。杉一小とは規模が異なる。
参加者：河北病院跡地は、駅前と比較して 3m程度低く元々沼地であり、浸水リスクが高い土地である。2019 年の資料では震災救援所としては不適切であると指摘されているが、8 月 31 日の資料には触れられていない。こんなにも大きな指摘が無視されているのはなぜか。また、Ｂ案で建替えた場合、震災救援所として使われるのか。
防災課長：区では水害ハザードマップを作成している。これは、日本で過去に降った最大の時間雨量 153㎜ を想定したものになっている（杉並区における最大時間雨量は平成 17 年 9 月 4 日の 110㎜）。河北病院のエリアではハザードマップ上、黄色や水色の部分が確かにある。
また、ハザードマップ上では昭和 56 年以降に杉並区内で氾濫したエリアをゼブラ柄で記載しているが、河北病院周辺では昭和 56 年以降の被害は出ていない。地盤をかさ上げした上で最大限配慮した上で学校を建設していく。
参加者：ハザードマップ上で 2mの冠水地帯に住んでいる。昭和 33 年の狩野川台風の際に床上浸水した場所である。河北病院の場所も被害を受けている。子どもの膝上くらいまで水嵩が来るような場所である。学校の地盤をかさ上げしても周辺は低いままなので、泳いで避難するということか。避難所を土地が低くて軟弱な地盤に移すということ自体おかしい。
都市企画担当課長：昭和 33 年の狩野川台風時には下水道整備がまだ進んでいなかったことに対し、現在は整備が進んでいるという部分で違いがある。とはいえ、100 年に一度の豪雨という言葉も耳にする気象変動の激しい時代ではあるので、引続き下水道局含め関係所管と連携して浸水対策を進めていく。また、学校側においても雨水貯留槽を校庭の下に入れて、雨水を一時的に貯められる仕組みを考えている。
拠点整備担当課長：阿佐谷と高円寺地域は木密地域に東京都から指定されている。近隣

道路は6m未満の道路であり、震災時には人も通行できない状況となる。現在の計画では11.5mに拡幅する予定で、消防車両も中に入れるようになるので地域的な防災力が向上する。また、雨水貯留槽は一時的に雨水を貯めて、雨が止んだら徐々に下水に流していくという仕組みである。区のつくる雨水流出抑制施設は、民間施設よりも20%程能力を増強してつくらなければならない決まりがある。20%の数字に捕らわれず、更に上を目指せるのであればそのようなことも考えて設計を進めていく。
参加者：リスクマネジメントの基本は多分大丈夫ではなく、ひょっとしてという考えが基本である。地震と台風が同時にくる可能性もある。地震で下水道施設が壊れることも考えられる。考えが甘いのではないか。
まちづくり担当部長：全くその通りであると思う。元々この計画もいつ起こるかわからない首都直下地震や、それに伴う火災の延焼被害等に備えて道路の拡幅やオープンスペースを住宅側に近づけていくという目的もある。地震と水害対策はどちらも大切なのは充分承知している。ただ、明日来る雨はわかるが明日来る地震は誰も予測できない。杉一小自体も校舎の長寿命化工事を行っているのですぐに壊れるという話ではないが、建替えは急がなければならない。阿佐ヶ谷駅北東地区を防災の拠点とするために三者で協力して進めている。また、学校の移転に伴って校庭に雨水貯留槽を設けることで、溢れた水も一定程度そこに貯めることができる。浸水の対策についても我々ができることは最大限努力していきたいと考えている。
参加者：Ｂ案となった場合震災救援所は杉一小で開かれる予定なのか。
防災課長：地震の際に開設する震災救援所と、水害の際に開設する避難場所がある。Ｂ案の場合でも、引続き震災救援所を開設する予定である。水害の避難場所としては、杉一小は優先順位 4 番目のＤランクであるので、優先順位としてはそれほど高くないが移転した後も水害の避難場所として使用する予定である。
参加者：現杉一小がＤランクで、移転後もＤランクの水害避難場所として指定されるということでよいか。
防災課長：今のところその予定である。
参加者：震災に配慮しての移転ということだが、この土地は軟弱地である。杭など地盤への対策が必要となるので、経費が安くなるという説明にも疑問を感じる。今ある場所はこの地域では一番強固で 3mも地盤が高いことがわかっているならば移転することに疑問を感じる。もう一度考え直してもらいたい。
区長：震災と水害に関してさらなる資料を提供することとする。
参加者：19 日に杉並第十小学校、荻窪小学校、富士見丘小学校の 3 校の移転についてお答えがあったが、荻窪小学校では移転に伴うクレームが起きたと聞いている。杉一小はバンドをやっている。二重窓にして防音にするから大丈夫だとのお答えであったが、二重窓にしても音や振動に対するクレームはくる。区はどのように考えているのか。荻窪小学校のクレームについては認識していないのか。また、光化学スモッグについて、1970年代に東田中学校で被害が多発する中、200 メートルと距離が離れていない杉並第二小学校は数メートル高いというだけで何の被害もなかった。現在も光化学スモッグはなくなったわけではない。子どもたちの健康をどのように考えているのか。
また、校庭の面積については学校教育に関してさほど影響ない。移転することで色々と

問題が生じるよりかは、今の場所で建替える方が子どもたちのためにもよい。
学校整備課長：荻窪小学校は、公園という緩衝帯はあるものの住宅地に近い場所にあるので、騒音に対する問題はあるということを認識している。最近では、子どもの声やチャイムの音が騒音ではないかという意見が特に都市部では出てきている。我々もそれについては課題として捉えていて、特に学校の場所が移るとなれば非常に重い問題であると考えている。教育委員会としては近隣の方にもご理解いただけるよう努力していく。
参加者：近隣への努力は学校側と子どもたちが行うのではないか。
学校整備課長：学校側とも連携して取り組んでいく。
参加者：近隣に理解を得るのは学校や教師、子どもたちである。言葉で言うのは簡単であるが学校側は大変な思いをする。
学校整備課長：貴重なご意見だと思っている。今も病院が建っていて救急車がそこを通行しているという現状がある。学校についても全く別の場所から移転してくるわけではないので、そこまで近隣の理解が得られないとは考えにくい。事前の住民の方への理解という部分は我々の努力次第であると考えている。
光化学スモッグについて、確かに今の場所から 3m程度低い場所になるのは事実であるが、3m低いからだめだとは教育委員会としては考えていない。校庭の面積や校舎の広さを移転改築により改善したいという思いをもっている。学校は震災時の震災救援所等の機能があるがほとんどの時間は学校としての時間である。より広い校庭や校舎を子どもたちのために実現したいと考えている。
参加者：資料 17 ページQ6 換地の公平性についてお聞きしたい。A街区については現在区が 100％土地を所有しているが、河北病院部分の土地と交換することでA街区の区の持ち分は 26％になってしまう。換地の公平性について何の数字も出てこないので、自分で計算してみたところ、13 億 5 千万円区が損する結果となった。計算した資料は後でお渡しするので確認してもらいたい。換地の公平性は皆が関心を持っている部分である。しっかり数字を出して説明してもらいたい。資料に 6 つの要素で評価をしていると記載されているが、どの要素でどう評価されているのか数字と理由をわかりやすく出していただきたい。情報公開条例で公開できないとおっしゃっているが、条例を見ると出せるのではないかと思う。
都市整備部長：換地の公平性について、区が損しているということはあってはならないことである。換地の情報をよりわかりやすく示せる方法はないのか検討を進めているので、準備が整い次第お示しする。それには地権者の協力が必要であるが、地権者からも協力するというお答えをいただいている。いただいた資料については中身を確認させていただく。
参加者：区の説明資料を見ると、本件は既に三者協定が結ばれていてこれを覆すことはできないと書いてある。我々が意見を言っても結果には反映されないと読めるが、冒頭の区長の発言で、区民の意見はこの計画に必ず反映させるとの内容があったが、その意味は何か。今回の議論を経て計画の変更もあり得ると考えていいのか。最終的には区長が指示を出しているので、区長に意見を言わなければ意味がない。また、質問者に対して区側が制限するのはおかしい。時間がないのであれば、次回も続けていくべきである。換地の公平性については、情報を公開して区民にしっかりと説明しないと訴訟に発展し

兼ねない。必ずこのような場で明らかにしてもらいたい。杉一小移転の問題と河北病院の建て替え問題は別の問題である。それを合体させたのが問題である。杉一小は現地で充分建替えられる。一部の人の意見だけを聞いて進めてもらっては困る。我々の意見が反映される可能性はあるのか。
区長：最初に申し上げたとおりである。私の指示で職員が言うとおりに動いているという認識は少し違う。私はこの事業の様々な関係者から意見を聞いており、特に、震災が起こった際の安全な街をつくらなければいけないという皆さんの思いを多く聞いている。この場以外にも、この場と同じように重要なお話がたくさんあるということをご理解いただきたい。土地区画整理事業は既に始まっていて、これが決まる前であったらできることはたくさんあったと思うが、今できる範囲で何ができるのか職員と議論を重ねて日々考えている。皆さまにどのような情報を提供すべきか、またこのような話し合いの場を続けることで少しずつ理解ができるのではないか、そして私たちももっと様々な準備ができるのではないかなど我々も日々学んでいる。この会の開催は大きな意味があると思っている。
参加者：この会合はこの事業計画を変えることができるかどうかを答えてほしい。
区長：変えるのは非常に困難である。
参加者：三者協定と言っているが、杉一小の建替えと河北病院の建替えは別問題なので変えようと思えば変えられると私は思っている。
区長：三者で協定を結んで進めている事業であるので、変更するためには三者が合意しなくてはならない。今この場にいる方と、それ以外の多くの方たちが一緒の席に座れないような状況になっているので、その状況をまず変えていかなくてはならない。区からの情報以外の情報も共有される機会をつくらなければならないと思っている。
参加者：我々の意見が計画に反映される可能性があるのかを聞きたい。
区長：もちろん反映される可能性はあるが、レベルの問題がある。
参加者：三者協定を覆せる可能性はあるのか。
都市企画担当課長：三者協定の中で移転の取扱いについて定めている。河北病院の移転は無関係というわけではなく、あくまで三者で土地の区画整理事業を進めている。また、杉一馬橋通りの拡幅による防災面の向上や、他にも地区計画も定めているなど、まちづくり全体を三者で協力して進めていくという視点で協定を結んでいる。学校の移転も協定に基づいて行われるもので、土地区画整理事業や杉一小の移転をやめるということになれば、病院の建築の計画やＡ街区の計画に影響を与える恐れがあり、それらの関係者に対する損害が発生する恐れがある。まちづくり全体で進めている話であるので、杉一小学校を別で考えることはできないということをご理解いただきたい。
参加者：杉一小学校は今の場所で建替えればいいし、病院の跡地も区で買い取ってまちづくりに活用すればいい。
参加者：杉一小の子どもたちの現状を知ってもらいたい。阿佐谷西公園などで遊んでいるが、公園の遊具が変えられてしまったことで保育園児が多くなり遊べなくなった。使わない人が遊ぶ場所を勝手に変えることはやめた方がよい。子どもが使うのだから子どもや区民の意見をきちんと聞くべきである。杉一小が今の場所にあることでよいことがある。おやじの会という団体が、杉一キャンプをやっている。病院の跡地にいくと住宅

街になって花火などはできなくなり、夏休みの楽しみがなくなってしまう。また、休み時間でも気を使ってのびのびとした遊びができなくなる。ジュニアバンドの練習を体育館などでしているが、住宅街に住んでいる方たちに迷惑になるので練習もしづらくなる。児童の意見を聞いてもらいたい。杉一小の場所を大人が勝手に変えないでほしい。
区長：子どもたちの声を聞いて物事を決めていくということは区政の大きな課題の一つである。
参加者：本日は来られていないお二人の方の代読をさせていただく。
我々はこの事業について勉強会を行っている。私がまとめた資料を本日配布させていただいている。
一人目、阿佐谷地域に防災公園を。阿佐ヶ谷駅北東地区は木密地域の重点対策地域内にある。緑地、公園、広場、運動場等が極端に少ない地域である。区内には 157.7ha あるが阿佐谷北地域は計 1.3ha しかない。現在の面積を教えてほしい。少ないと思われている高円寺北でも 2.6ha ある。阿佐谷北地域の住民一人当たりの公園面積は区の平均を大きく下回っている。何番目であるか。阿佐谷北地域は一時避難場所すらない地域であり、この地域の最低限の安全性が確保されているか適切に判定することが区に求められている。阿佐ヶ谷駅北東地区を防災という面から考え、区はこの地域の安全性を確保するために、河北病院の広い敷地に防災公園を整備するべきである。区が現河北病院のＣ街区を公園にすることで、この地域の発災時の火災による死傷者を減少させることが可能となる。2015 年 2 月には地域の総意として阿佐谷北、高円寺北地域に防災公園をつくってほしいという要望書を出した。河北病院のあるＣ街区を公園にしてほしい。この要望書を行政は再確認し答えをもらいたい。
二人目、15 ページ②浸水被害の部分に、１階が浸水しても校舎の 2 階以上に避難すれば安全は確保できると書いてある。一方、8 月 31 日に配布した資料の 15 ページでは、1 階の床を上げグラウンドの地盤も上げる、第二桃園川幹線下水道もできるので学校は浸水しないということであった。今回と比較すると区の浸水対策の説明が大幅に後退している。また、第二桃園川幹線の事業主体である東京都の 2020 年の説明では、降雨対応は 50㎜/h と明記されておりその後変更はない。しかし区は都のシミュレーションでは 75㎜/h の雨までは大丈夫とのことであったと説明し、10 月 19 日の資料にも 75㎜/h と載せているがその根拠・理由は何か。杉一小移転案の水害対策が 8 月 31 日の説明から今回の資料で後退したことを認めその理由を話してほしい。また、第二桃園川幹線の降雨対応 75㎜/h の根拠を示してほしい。
都市企画担当課長：第二桃園川幹線については 50㎜/h 対応ということで進めているものであるが、50㎜/h 対応であるから 75㎜/h の雨に対して効果が無いという訳ではない。東京都のシミュレーションのとおり 75㎜/h の降雨の場合でも浸水は軽減される。第二桃園川幹線の整備により 100％浸水被害がなくなるわけではないが、この他にもグラウンドの中に雨水貯留槽を設けたり、各家庭に対しても雨水流出抑制対策を推進している。一度に大量の雨が降り、それが全て下水に入ると下水が処理しきれなくなる。宅地に降った雨は、できるだけ宅地内で処理してもらうことで、下水に入る雨を抑制できる。第二桃園川幹線の整備により完全に浸水被害が解消されるわけではないので、引続き東京都等の関係所管や地域の皆さんと協力して浸水対策を進めていきたい。緑地面積について

は、所管の者が本日出席していないのでこの場でお答えはできない。
学校整備課長：浸水被害対策が後退しているのではないかというご指摘について、8 月 31 日の会の中では時間が足りず説明が不十分で申し訳なかったと思っている。今回の資料は地域防災計画でもお示ししている通り、設備を整える浸水対策は必要であるが完璧な対策にならない場合もある中で、単純に 1 階から 2 階へ垂直避難することで水害は回避できるということをお示しした。考え方が後退したというつもりで記載したものではない。
参加者：緑地面積について、次回回答していただきたい。
参加者：音楽活動などを自由できる学校があの場所にある。あの場所にもう一度建替えてもらいたい。阿佐ヶ谷中学校が建替えされたときに在籍していた。1 年生は旧校舎、2 年生はプレハブ、3 年生は新校舎で過ごすことができた。資料では 3 年間が仮設校舎と記載されているが、経験上 1 年と少しで建替えは終わった。それ程期間はかからないと思う。今の場所でも建替えは可能である。
参加者：学校ではキャンプやジュニアバンドをやっている。区は近隣理解が得られるよう頑張ると言っているが、頑張るのは利用している学生と保護者と先生方である。区長が昨年 11 月 11 日のモニフラＺ会議に出演して小学校跡地活用の話をしていたのを YouTube で見た。その際、反対意見が強くなった場合は計画を見直すという資料を出していた。今年 5 月 24 日の記者会見でも移転問題の話をしていた。小学校移転後の跡地は今の段階でどのような計画なのか。
区長：私が様々なメディアで話していることは公約で書いたことについてである。公約には阿佐ヶ谷北東地区のことは書いてはいないが、住民の合意が得られていない事業に関しては立ち止まって見直すということを書いている。これは全体的なことに対してであり、なのでこのような会を開催している。ここで計画を変えるとは言えない。いずれは皆さんと、他の様々な関係者も含めて一緒に話しをしたい。ただまだその土壌はできていないから最大の努力をしている。これが私の公約でいうところの、一度立ち止まって皆さんの声をきちんと聞くということであるが、皆さんの声だけではないということは理解していただきたい。学校の主体者となる子どもたちや保護者、先生、学校教育関係者などが中心となった皆がよいと思う学校をつくりたいと思う。小学校移転後の跡地活用についてはこれから決めていく。跡地の活用検討は、小学校の移転の合意が得られていなければ始めることはできない。区民の皆さんも含めて 10 年先、100 年先を見据えたＡ街区の活用検討を進めていきたい。
参加者：まず、跡地の計画づくりを行うのが先ではないか。跡地の計画をある程度決めて、収支検討を行い、移転のメリットをはっきりさせてから区民に説明すべきである。移転を決めてから、跡地検討を始めるという順番では戻れなくなる。
区長：過去に起こった事実を変えることはできないが、そこから学ぶことはできる。今ある条件の中でどのように変えていけるかということを皆で話し合うこともできる。
参加者：跡地の計画検討は今からでもできるはずである。なぜ移転後に検討するのか。
都市整備部長：現時点ではＡ街区の中身は決まっていない。Ａ街区の活用計画もセットで、事業全体のプランを見せてから皆で議論すべきではないかという考えがある一方で、Ａ街区の議論を始めるということはもう小学校の移転ありきと捉える方もいる。ただ、

移転してから決めていくのは当然遅いので、どこかのタイミングで小学校が移転するということになれば、地権者や区民の皆さんと話し合いを重ねながらＡ街区の活用計画を議論していく。
参加者：区長が代われば状況が変わるのではないかと期待している。我々が区長に求めるのは計画の微修正ではなく、抜本的な転換である。このようなことを今一度心に留めて意思決定してもらいたいと思う。
参加者：資料の 3 ページの最後に「区として反省すべき点と認識しています」と記載されている。区は大いに反省しているはずであるし、今後はこのようなことがないようにお願いしたい。これまでの経緯は一旦ストップすべきではないか。
施設マネジメント担当課長：Ａ案からＢ案に変更になったプロセスについて、区としてはできる限り丁寧な説明に努めてきたが、情報の透明性の部分などで、反省すべき点があったと捉えている。その反省に立って今できることをしっかりとやっていきたいと考えており、その中の一つがこの会の開催である。また、当時の資料や事業の概要をまとめた資料など、ホームページ中心の提供となってしまい申し訳ない部分はあるが、できる限りの情報提供に努めている。こうした努力はこの事業に限らず区政を進めていく上でしっかりと取り組んでいきたいと考えている。
参加者：この計画をまとめたのは杉並区と記載されているが、当時は誰が決めたのか。
施設マネジメント担当課長：最終的にどこで決まったのかを申し上げると、資料 6 ページの平成 25 年 5 月 15 日「杉並第一小学校等施設整備等方針」を意思決定と記載している部分で決めている。
参加者：これまでの経緯の資料に色々と書いてあるが、情報を公開していない。反省点があるのではないかと思う。
施設マネジメント担当課長：情報公開の部分で反省すべき点があることは、おっしゃるとおりである
参加者：小学校移転に関する周知が足りていないのではないか。周辺住民に周知するためには戸別で訪問した方がよいのではないか。資料 9 ページに協定を締結していて、「区で一方的に学校の移転を取りやめた場合、私法上の契約とも解される 3 つの協定や地区計画、土地区画整理事業の事業計画違反など重大な違法行為となります。」と記載されているが、法というのはどのような法なのか。8 月 31 日の説明では、法的な縛りではなくて道義的なものだということであったが区の認識が変わったのか。他にも、21 ページに「事業見直しに伴う他の施行者や関係権利者に対する金銭補償などの大きな負担が想定されます。」と記載があるが、8 月 31 日の説明では金銭補償が起きるかはわからないということであったが、その後地権者との接触で金銭補償が生じることが確認されたということか。杉一小学校の移転について、校庭が広くなるという話が出ているが、これまでの資料だと具体的な図として出ていないのでわかりにくい。費用についても現在の場所に建替えた場合は杭を打たなければならないかもしれないであったり、地代が２億円程度発生するのではないかなど、曖昧なものが多いのでもう少しシミュレーションが必要である。それぞれのパターンの計画図案とその費用を比較できる資料がないと理解が難しい。また、移転後の防音対策で何か構造物を設置するのかなどそれにより学校のイメージも変わってくる。シミュレーションをしてそれを示してもらわないと善し悪しの比

較ができない。また、杉一小学校の跡地計画に住民意見が反映させられる制度ができるのかお尋ねしたい。
都市企画担当課長：私法上では民法の契約にあたる可能性がある、他にも地区計画や土地区画整理事業で杉一小学校の移転を定めている。損害賠償については現段階で明確になっているものではないが、地権者も移転を踏まえたＡ街区の活用を考えているので、そのようなところで損害賠償請求されることがあり得るということを記載している。
拠点整備担当課長：学校の工事費については 8 月 31 日の会の中で、軟弱地盤で杭の工事費が掛かるのではないかと意見があったので、今回の資料ではそれについて記載をしている。Ａ街区の仕組みづくりについては正にこれからの課題であると捉えている。地権者の協力のもと、どのような形で区民の意見を取り入れられるか検討していきたい。
参加者：プランは出してもらえるのか。
都市整備部長：今ご質問になった内容も含めて情報提供が足りていないという認識を持っている。可能な範囲にはなるが、今後もわかりやすい資料の提供に努めていく。
参加者：杉一小学校移転後の近隣の関係性を心配している。学校は地域コミュニティの中で成り立っている。19 日の説明で杉並第十小学校、荻窪小学校、富士見丘小学校の 3 校が移転したが大丈夫であったと聞いたが、荻窪小学校は地域からクレームが出ていると聞いている。地域からクレームが出たときに苦労するのはＰＴＡや子どもや学校である。過去に学童クラブをつくった際に、区は大丈夫と言っていたが、やはり遊べなかったということがあったので、また同じことが起こるのではないかと心配している。区は移転した３校についてどのような調査をしたのか。何を根拠に大丈夫と言っているのか。
学校整備課長:19 日のご質問は教育が崩壊するのではないかというご質問であったため、その点までは至らないという意味で大丈夫であると申し上げた。言葉が足らず申し訳なかったと思っている。移転後の心配は当然ある。これまでと違う環境に置かれる方にとっては非常に重要な問題であると認識している。学校や子どもたちにも負担を与えてしまうであろうと考えている。100％大丈夫であるとは言えないが、これまでも病院に救急車が入ってくる音はあったし、新たに住宅との間に道路が整備されるということもある。移転後の問題については我々も努力していきたいと考えている。
参加者：区民と行政が信頼関係を築いて進めていかないとずっと平行線のままである。その点を意識して進めてもらいたい。
参加者：現状は住民どころか当事者の児童の理解も得られていない。住民の理解がないまま移転を進めたら杉並区の住民自治は死んでしまう。住民自治に向き合うか、そうではない杉並区になるのかという問題である。また、移転ありきになっていて、土壌汚染の調査もまだであるし、具体的なハザード対策も示せていない状況である。区長は 180 度変えることはできないと言っていたが、変えようと思えば変えられると思う。丁寧に説明すれば理解が得られるというものではない。事業の最初の部分に問題があるので、立ち止まるどころか戻る覚悟がないと住民理解は得られない。
参加者：ジュニアバンドは地域に支えられて活動ができている。今の場所にあるからこそ今の文化が育まれてきたと思う。移転先は住宅に囲まれているため音によるクレームが心配である。クレームによって子どもたちの生活に制限が掛かることは好ましくない。学校の先生や地域の方々が対応に追われて労働状況が悪化することも懸念している。移

転先は馬橋小学校や朝鮮学校とも至近である。移転したら阿佐谷北一丁目地域は大変騒々しくなる気がする。子どもたちらしくのびのびと学べる環境を担保してもらいたい。コロナや気候変動による予測不能な大雨など、不測の事態も考えられるので移転は一旦立ち止まってほしい。
参加者：荻窪小学校の件は実体を調べて皆さんに公開してもらいたい。ここに来ていない大勢の賛成者がいるということだが、それはただの願望ではないか。移転の理由で教育活動の充実を謳っているが、教育活動の充実に係る要素は校庭が広くなる、校庭が地上になる、仮設校舎が不要となる、この３つくらいである。これに対して失うものは多く、杉一小の 148 年間培われてきた個性や教育風土、様々な方の活動の積み重ねの上に成り立っているものが移転により失われる可能性がある。駅が近いことも杉一小の教育活動に大きく影響を与えている。駅に近いからできていたことが、例え何百メートルの移転でもできなくなることがある。大人は何百メートルの移転であればたいしたことはないと思うであろうが、現場にはものすごいインパクトがある。Ａ街区に小学校機能を残すということは、全てを学校にするということだけではなく敷地の中の一部に小学校機能を残すという方向も考えられる。今後そのような話し合いに進んでいければよいと思う。
参加者：2018 年 11 月 9 日の土地区画整理事業基本協定書のそれぞれの街区の面積では、Ａ街区は 5,559 ㎡、Ｂ街区は 12,606 ㎡、Ｃ街区は 6,828 ㎡となっている。一方、Ｂ街区の病院の説明会でもらった資料では敷地面積 11,163.21 ㎡となっており 1,443 ㎡の乖離がある。これはなぜか。答えを公開するなどの対応をお願いしたい。小学校の移転は多くの問題を抱えている。1. 換地の公平性が担保されていないという問題。病院の跡地という危険な場所をあえて買うというのは換地の問題と大きく絡んでいる。2. 低地による水害問題、3. 土壌汚染問題、他にも、土地が不正形であるという問題や近隣住人問題もある。区長は住民合意がなされないと前に進めないと言っているが、住民合意は区長、職員、住民の三者が一つにならないと進めることはできない。様々な区民の声を聞いて方向性を探ってもらいたい。
参加者：仮換地のもとになった、土地区画整理事業の個人施行というものは誰が言い出したことなのか。
都市企画担当課長：三者で話し合いをして決めていった。
参加者：杉並区は平気で阿佐谷の森を壊した。例え個人の森であっても区は計画が出てきた時点で立ち止まらせるべきであった。杉一小の移転に関しても、移転ありきでただ区民の話を聞いているだけに思える。昔は住民も小学校の音に対して寛容であったが、時代が変わり音に対して敏感になっている。杉一小の移転はリスクがあるのでやめていただきたい。
都市企画担当課長：確かにけやき屋敷の現状が失われたのは事実である。ただ、森については可能な限り保全に努め、道路整備の際などは沿道緑化を行うなど地区全体でみどりを増やしていきたいと考えている。また、皆さんとこのような場で対等にお話をするには情報の公開が不可欠であると考えている。区としては可能な限りわかりやすい資料を提示して皆さんと話し合いをしたいと考えている。その姿勢は今後も持ち続けていきたい。

参加者：今の杉一小学校は地権者がご自身の土地の中で一番高い土地を子どもたちが賢くなるようにと提供してくれた。150 年の学校制度を杉並区で壊すことはやめた方がよい。移転先は学区の端であり、小学校の小さい子どもたちをそこまで歩かせるなんてあり得ないことである。学校を移さなくて済む方法を考え実現させてほしい。杉一小があの場所にあることは、杉並の教育の始まりであり、杉一小は先進的な教育をしている。それはおやじの会やＰＴＡの方々などの地域の方々がいるからである。杉一小学校はあの場所であるべきである。
参加者：資料 11 ページの小学校移転の理由について、杉一小学校の子どもたちにとってのより良い教育環境の確保とは何かということを皆さんと考えたい。前提として、杉並区における杉一小学校の魅力というものをあらためて学校整備担当部長にお聞きしたい。
学校整備担当部長：杉並第一小学校は最も歴史のある古い学校である。古いというのはそれだけ卒業生が多く、近隣に卒業生も多く住んでおり学校に愛着を持っている方が多くいるということ。個別の活動で言えば、学校支援本部があり朝先生が有名である。地元の方が毎朝子どもたちに本の読み聞かせを行っており、子どもたちも親しみを込めて先生と呼んでいる。その方たちもボランティアとして学校に係ることを誇りに感じていると聞いている。また、古い校舎ではあるが、学校や学校支援本部の方たちが、子どもたちがよい大人に育ってほしいと願い努力してきた。一方で校舎が狭いということがある。これにより子どもたちの活動に制限が生まれてしまう。区内で一番敷地面積が狭く校庭も狭いのでこれについては解消したいと考えている。校庭が広くなる程度と思われる方もいるかもしれないが、校庭が広くなることで休み時間、体育の時間、運動会等で広いところで活動ができるのは大きなメリットである。
参加者：校庭が狭いから子どもたちにとっては不便ではないかということであるが、在校生の話でも狭くても魅力的であるという話が出ていて、その魅力が何かを学校整備担当部長にお話しいただいたと思っている。学校整備担当部長がおっしゃったように 148 年の歴史の中で育まれた杉一小学校独自の魅力があると思う。杉並区のモデル校として認定されているほど、子どもや保護者にとっても、杉並区自身にとってもかけがえのない財産であると認識している。行政はこの魅力を次世代の子どもたちのためにも残す必要があると考えているのか。
学校整備担当部長：教育委員会としても杉並第一小学校は素晴らしい活動をしていると申し上げたが、今の場所でなければできないという意味で申し上げたものではない。場所が違った場所にあったとしても、きっと杉並第一小学校は今と同じ活動ができていて子どもたちの教育は充実していると思っている。
参加者：今と同じ魅力を維持できるということを確約できるのか。移転先に魅力を変わらずに引き継げるのか。
学校整備担当部長：数字で表せるものでもないので確約というのは難しい。皆さんから意見をいただければそれについて我々も考えていきたい。
参加者：魅力を次世代に引き継ぎたいと思っているのか。
学校整備担当部長：魅力は引き継ぎたいと考えている。
参加者：都市整備部長はどうか。

都市整備部長：当然そう思っている。更によい学校にしていきたいと思っている。
参加者：都市整備部まちづくり担当部長はいかがか。
都市整備部まちづくり担当部長：当然おっしゃることそのとおりであると思う。
参加者：区政経営改革担当部長はいかがか。
区政経営改革担当部長：148 年の魅力は当然大事にしたいと思うし、今後の 100 年 150 年に向けての新たな魅力もあると思うのでそれに繋がるような取り組みをしていきたいと考えている。
参加者：区長はいかがか。
区長：よりよいものをつくっていきたい。物事には色々な判断があると思うが、その道をどうつくるかに掛かっていると思う。よい道をつくっていくということは区の職員だけの仕事ではなく、地域社会や全ての関係者に掛かってくるものである。
参加者：区長はじめ、部長クラスの方々が杉一小学校独自の魅力を継承するだけでなく発展させなければならないと共通でおっしゃっていたと思う。ポイントは杉一小学校独自の魅力が可視化されていないことである。子どもたち、保護者、学校支援本部、ＯＢがそれぞれ杉一小学校の魅力は何であると考えているのか確認してまとめてもらいたい。そしてその魅力が移転先に本当に持っていけるのか、どのような根拠で持っていけるのか根拠を示してほしい。根拠がないものは根拠がないでいいから可視化してもらいたい。次の対話の場があればそれを持ってきてもらいたい。
都市整備部長：確かに今おっしゃったことは重要なことであり、ご心配されている方々も多いと思われる。教育の担当との相談にはなるが、ご意見いただいた趣旨の資料をご準備したいと思う。
参加者：賛成反対関係なく杉並区の行政の分岐点である。我々との信頼関係はここで失ったらもう修復できないと思う。住民のために仕事をしてくれるのであれば我々も協力する。
参加者：杉一小学校が高台にできたのは先代が子どもを大事にして一番地盤が良く、付近に神社があり神に守られる場所という思いであの場所に学校を建設したと聞いたことがある。あんさんぶる荻窪をつくる際は利用者が集まり話し合いを行ってつくったが、ウェルファーム杉並をつくる際はそうではなかった。その結果、ウェルファーム杉並は問題だらけである。利用者の意見を聞かずにつくったからそのようなことになる。杉一小学校の移転にしても、小学校の児童が今の場所がよいと言っているのだからその意見を聞くべきである。また、移転先は馬橋小学校の校区に近接している。そんなに遠い小学校に子どもたちを通わせるのかと思う。とにかく皆の意見を聞いて進めてもらいたいと思う。

＜区長 閉会あいさつ＞
　最後までお付き合いいただきありがとうございました。
　本日はこれで終わりにしたいと思うが、本日いただいた宿題もあり、この先何らかの形で話し合いを続けていくことはできると思っている。それはまたお知らせさせていただく。
　そしてその間、この会には出席しづらい方々や、地域の関係団体、学校関係の方など

個別にお会いして話し合いをしていきたいと思う。今日の大きなメッセージは杉一小学校の在校生からいただいたので、このことを重く受け止めて、子どもたちの意見を何らかの形で聞くということも行っていきたいと思う。 　私たちも何を学んでどう進んでいくのかという道を少しずつつくっていくことだと思う。今決めなければこの先の杉並はないという意見もありますが私はそう思ってはいない。今できることを少しずつ皆で変えていってその先に杉並の未来があると思っている。 　これからも皆さんと、またここにいない方とも共に一緒に頑張りたいと思う。
配布資料
阿佐ヶ谷駅北東まちづくりに関する主な質問と回答